

放課後子供教室を支える 地域の教育力の向上をめざして ～東京学芸大学と区市の連携による 「地域教育支援人材養成プログラムの研究開発」の取組～

平成21年度から東京学芸大学が日野市や練馬区と連携し、放課後子供教室スタッフを対象に「子供との関わり方」についての講義や遊びのワークショップなどを実施し、地域の教育力の向上をめざした人材養成プログラムの調査研究を進めてきました。今回は、その取組状況を報告します。

I

「日野市子育てマンパワー育成事業 ひのっちチャージ」

「ひのっちチャージ」キャラクターとりちゃん日野市の市の鳥であるカワセミをイメージしています



①「ひのっち」(日野市放課後子どもプラン)とは

目的・理念

子供たちが地域の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを提供していくことを目的に、放課後の子供たちの安全で安心な居場所づくりを地域の方々の協力を得て実施しています。

実施場所

市内全17小学校の校庭・体育館・特別教室など

開催日時

給食のある平日 午後1時30分から午後5時まで
(秋冬季は午後4時又は午後4時30分まで)

開催日数

平均202日(平成21年度)

参加人数

延べ140,472人、1日・全教室平均41人(平成21年度)

「ひのっち」を支える人たち

◆ ひのっちコーディネーター 12名

青少年地区育成会、体育指導員など青少年育成に携ってきた人が、「ひのっち」での遊びや学習のプログラムの作成、市や学校との調整などを行っています。

◆ ひのっちパートナー(安全管理員) 登録331名(平均年齢58歳)

「地域の保護者」として、小学校児童の保護者や60歳以上の男性が中心となり、活動場所子供たちが安全に遊んだり、学んだりできるように見守っています。

◆ 学習アドバイザー 208名 (「ひのっちパートナー」兼任を含む)

活動場所子供たちに学びやスポーツ、文化活動や地域との交流活動等のプログラムを指導しています。



☆「一小ひのっち」の活動

「ひのっち」発足当初から、校長先生もコーディネーターも体を使って外で遊ぶことに力を入れる方針で進めています。校庭の北側にある自然園は池あり、小さな森ありで普段から人気のスポットです。夏休みに行った「自然園をきれいに」というイベントの時の賑わっている様子です。子供たちは普段池に入ることを許されていないこともあり、池掃除を名目に池に入ることを公に認められたこの時は、大変喜んでいました。

② 日野市子育てマンパワー育成事業「ひのっちチャージ」

(1)事業の流れ

東京都・東京学芸大学・日野市で打合せ

「ひのっちパートナー」に対するアンケート結果を参考に、事業の骨子、仮説の検討

「ひのっち」6教室ヒヤリング

現場の現状とニーズの把握
〈見学の視点〉
「運営の状況」「遊びの工夫」「子供との関わり」「学校との関係」「他施設との関係」「保護者との関わり」「人材面」「問題点・課題」

仮説～講座立案

現場のニーズに基づき講座の立案、広報・案内の工夫

講座実施～コーディネート

講座への満足度が高まるように、講座申込者が聞きたいことを事前に講師に伝えるなど講師と参加者をコーディネートする。

検証

参加者のアンケートや意見を基に講座の成果等を検証する。